

第3学年 外国語活動学習指導案

日時：令和元年6月28日（金）

場 所：3年2組教室

学 級：3年2組 35名

1 単元名

「Unit 3 How many? 数えてあそぼう」

2 児童観

明るく元気で活動的な児童が多い。しかし、家庭環境や経験は様々で、前向きに外国語活動に参加しようとする児童がいる一方で、簡単な会話文にも抵抗を感じて、「やりたくない」と消極的な児童もいる。そこで、児童がやりたくなる魅力的な教材を提示したり、難しくないアクティビティやゲームを工夫したりすることで児童の意欲を高める必要がある。児童にあった教材や場の設定をすることで、積極的に活動に取り組むことができると考える。

3 研究主題にせまるために（主体的・対話的で深い学びによる授業改善の手立て）

- (1) 歌を通して英語表現を身につける。そのため、給食時間や休み時間などの隙間の時間にも音楽を流す。（主体的・慣れ親しみ）
- (2) 様々な国の数の言い方に触れることを通し、様々な国の文化の違いに興味をもたせ、他教科への学習に広げる。（深い学び）
- (3) 会話の方法やゲームのルールを確実に把握するために、何度も繰り返し練習したり丁寧に説明したりすることで楽しくゲームに参加できるようにする。（主体的）
- (4) アクティビティを対話的にするために、アクティビティの後にその会話やフレーズがいつ使えるか具体的な場面を考えさせる。（対話的）

4 単元の指導目標

- ・日本と外国の数の言い方の違いから、多様な考え方や文化があることに気づき、1から20までの数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。（知識及び技能）
- ・数について尋ねたり答えたりして伝え合う。（思考力、判断力、表現力）
- ・相手に伝わるよう工夫しながら、数を尋ねたり答えたりしようとする。（学びに向かう力、人間性等）

5 言語材料

(1) 表現(児童の発話)

A : How many (apples)? B : Ten apples.

(2) 語彙(児童が使う語彙)

- ・数 (one~twenty)
- ・身の回りの物(ball, pencil, eraser, ruler, crayon)
- ・食べ物 (apple, tomato, candy)

6 該当する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと (やり取り)	イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語彙や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

7 単元の評価規準

知識及び技能	① 日本語と英語の音声やリズムの違いに気づいている。 ② 1～20の英語の音声やリズムに慣れ親しみ、歌を歌ったりチャンツを言ったりすることを楽しんでいる。
思考力、判断力、表現力等	① 1～10を使って身の回りにある様々なものを数えようとしている。 ② 自分の持っているキャンディの数を英語で相手に伝えようとしている。

学びに向かう人間性等	① 世界には多数な数の言い方があることに気づいている。 ② 1～20の数の言い方に慣れ親しみ、進んで友達に数を尋ねたり答えたりしようとしている。
------------	---

8 単元指導計画（4時間）

時	目標（◆）と主な活動（〔 〕、○） 主題にせまるための手立て（◎）	評価
1	◆1～10の数の言い方を知り、言語や文化によって言い方に違いがあることや、外来語を通して、日本語と英語の音声やリズムの違いに気づく。 ○歌 Ten Steps ○チャンツ（1～10） ○他言語の数え方を知る。 ○ジェスチャーゲーム ◎3－（2）	学－① 知－①
2	◆1～10の数を使って、身の回りにある様々なものを数えることができる。 ○歌 Ten Steps ○チャンツ（1～10） ○How many pencils? ・筆箱の中の鉛筆の数を友だちに聞いたり伝えたりする。 ○キャンディ作り ・ペットボトルのキャップを折り紙でつつんでキャンディを一人5個程度作る。 ◎3－（1）（3）	思－①
3	◆11～20の言い方を知り、身の回りにある様々なものを数えることができる。 ○歌 Ten Steps ○チャンツ（1～20） ○Wowゲーム ○りんごクイズ ・好きな数だけリンゴの絵に色をぬり、自分がいくつ塗ったのかを相手に伝えたり、相手がいくつ塗ったのかを尋ねたりする。 ◎3－（1）（3）	知－②
4	◆1～20の数を使って、相手に数を尋ねたり、答えたりすることができる。 ○歌 Ten Steps ○チャンツ（1～20） ○Wowゲーム ○キャンディゲーム ◎3－（1）（3）（4）	思－② 学－②

9 本時（全4時間の4時間目）

（1）本時の目標

◆1～20の数に慣れ親しみ、相手に数を尋ねたり、答えたりすることができる。

（2）準備物

・デジタル画像、フラッシュカード、第2時で作ったキャンディ

（3）表現・語彙

・How many candies?/ I have ten.

（4）本時の展開

時間	○児童の活動 △児童のつまずき	☆指導上の留意点	・準備物 評価
----	--------------------	----------	------------

導入	Greeting ○あいさつをする ○♪Hello song を歌う。 ○「BEST」を確認する。 Warming up ○♪Ten Steps を歌う。 Small talk ○教師の Small talk を聞く。	☆楽しく元気よく歌うように声をかける。 ☆意識しやすいように黒板に掲示する。 ☆1～20までの歌を歌う。 ☆友達とペアになり、手をたたきリズムに合わせて歌う。 ☆How many～？が出てくる話をして、本時のめあてにつなげる。	・ CD ・ チェックポイントのカード
展開	Today's goal ○本時のめあてを確認する。 Activity 1 ○Wow ゲームをする。 ・ 順番に一人1～3この数字を言う。 20を言った両側の人が“Wow”と言う。 △言いたいけど、言い方が分からない。 Activity 2 ○キャンディゲームをする。 ①ゲームのやり方のデモンストレーションを見る。【デジタル画像】 ★最初は全員5個ずつキャンディを持っている。 A : Hello. B : Hello. ★じゃんけんをして、勝った人は負けた人から1つもらう。 B : Here you are. A : Thank you. B : You're welcome. How many candies? A : (Six.) How many candies? B : (Four.) A : OK. See you. B : See you. ★できるだけたくさんの人とやりとりする。 ★キャンディがなくなったら教師のところへもらいに来る。 ②さまざまな組み合わせで練習する。 ・ 教師と全員 ・ 号車ごと ・ 代表児童と全児童 など ③ゲームをする。 △尋ね方が分からない。 ④自分の持っているキャンディの数を数える。	友だちに英語で数を聞いたり、答えたりしよう。 ☆1～20までの言い方を全体で声に出して練習する。 ☆言えずに止まっている児童がいたら一緒に言う。 ・ デジタル画像 ・ 5個ずつに袋に入れたキャンディ 思-② 学-② ☆尋ね方が分からない児童を見つけたら一緒に言う。 ☆キャンディがなくなった児童には、教師のところへもらいに来るようにする。	

まとめ	Reflection ○他にどんなときに使えるか考える。 ○リフレクションカードを書く。 Closing ○♪ Goodbye song を歌う。 ○あいさつをする。	☆どんな場面で How many～？が使える うか考えさせる。 ☆数名の児童に感想を発表させる。 ☆元気よく楽しく歌うように声をかける。	・リフレク ション カード
-----	--	---	---------------------

(4) 授業観察の視点

- ①アクティビティ（キャンディゲーム）の前に会話の練習をすることで、その後のアクティビティが主体的に行われていたか。
- ②アクティビティの後に、他にどんな場面で How many～？が使えるかを考えさせたことは、対話的な活動であったか。